

ナス黒枯病菌の薬剤感受性



写真 ナス黒枯病罹病葉

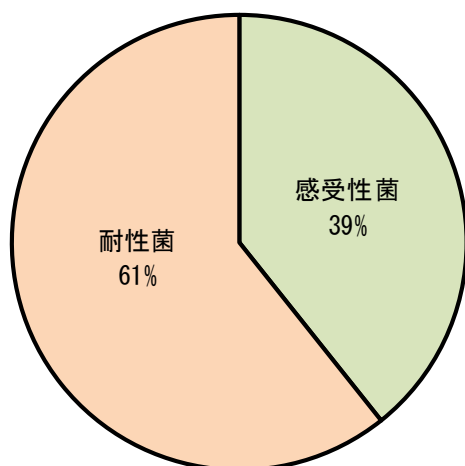


図 遺伝子診断による QoI 剤耐性菌の検出結果

高知県のナス栽培で問題となっている黒枯病(写真)では、QoI剤に分類されるアミスター20フロアブルに対する耐性菌の発生が報告されています。生産現場で黒枯病の防除剤として使用されているファンタジスタ顆粒水和剤(以下、ファンタジスタ)もQoI剤であることから、交差耐性(ある農薬に対する耐性菌は同一系統の他農薬に対しても耐性を示すこと)の発生が疑われました。そこで、ファンタジスタの防除効果を明らかにするため、県内のナス産地を中心に採取した84菌株について薬剤感受性試験を実施しました。

試験は、遺伝子診断法とナスポット苗を用いて行いました。遺伝子診断の結果、61

表 ファンタジスタ顆粒水和剤のナス黒枯病に対する防除効果

菌株	防除価
感受性菌 A	75.8
感受性菌 B	67.3
感受性菌 C	72.5
感受性菌 D	87.7
耐性菌 A	4.3
耐性菌 B	36.9
耐性菌 C	15.5
耐性菌 D	20.4
耐性菌 E	23.9

注 1) 防除価=100-(農薬処理株の平均病斑数/無処理株の平均病斑数)×100

注 2) 防除価は数値が大きいほど効果が高いことを示す。

%にあたる51菌株がファンタジスタ耐性菌であり、耐性菌が多く発生していることが明らかとなりました(図)。また、ナスポット苗を用いた試験の結果、耐性菌に対するファンタジスタの防除効果は感受性菌を対象とした場合に比べ大きく低下することが分かりました(表)。

耐性菌の発生を防ぐためには、薬剤耐性のつきにくい薬剤の使用、異なる系統の剤によるローテーション散布の徹底、ハウス湿度低下などの対策も必要です。今後は、SDHI剤についても同様の試験を行う予定です。

(病理担当 森實 祐香 088-863-4915)